

第9節 環境教育・環境学習の推進

八王子は市域が186km²と広大なため、地域によって環境の現況や課題が異なることから、地域ごとの環境保全活動が重要となってきます。

また、今日の環境問題を解決していくためには、一人ひとりが環境問題に関心を持ち、環境保全に対する意識を高め、環境に配慮した行動を心がけるとともに、できるだけ環境に負荷をかけない生活をしていくことが必要です。

更に、このような生活様式・習慣を身につけるためには、幼い頃からの自然体験や環境学習などが重要となり、地域に根ざした環境教育・環境学習を推進するとともに、環境市民会議などの活動を支援する人材を育成し、活動拠点を整備しました。

環境教育・環境学習は、地域住民が一体となって環境への取り組みを推進するための基盤となる取り組みです。

1. 地域における環境学習の推進

(1) 人材育成と環境指標

ア. 環境学習リーダーの養成

自発的に環境保全活動に取り組む環境市民会議の活動を適切に支援する人材として、14年度から環境学習リーダーを養成しています。14年度34名、15年度30名、16年度29名、17年度は講座を休講し、18年度は20名を認定し、認定者総数が113名となり、当初目標である100名の養成を達成しました。

主 な 講 座		
環境学習リーダーの役割	高尾山の自然観察	浅川見学
緑地保全活動体験	地質巡検	農場見学



大沢川での実習

イ. 環境診断士の養成と環境指標「ちえっくどう」の普及活用



「ちえっくどう」を体験中
(環境フェスティバル)

市民・事業者が自ら環境について調べ、行動していくための手引書である環境指標「ちえっくどう」を用いて環境診断を実施する際に適切に指導・助言ができるとともに、環境市民会議のメンバーとして地域の環境保全活動を行い、専門的にアドバイスできる人材として14年度から環境診断士を養成しています。14年度23名、15年度32名、16年度29名、17年度21名を認定し、18年度は、講座が休講年であったことや、2期環境診断士の認定更新者が少なかったことから、認定者総数が79名となり、前年度より減少しました。

また、「ちえっくどう」を使用した地域の環境診断は、環境市民会議が自然体験講座等で実施したほか、環境フェスティバルにおいて、315名もの方に体験していただきました。

(2) 環境学習室「エコひろば」の拡充



夏休み親子かんきょう
見学・体験ツアーの様子

市民・事業者が環境について関心を持つきっかけづくりと、環境保全活動団体等が、地域に根ざした活動を展開するための活動拠点である環境学習室「エコひろば」の管理運営業務を、18年4月から環境学習・リサイクル推進協議会に委託し、小学校等の見学や利用者の相談などに対応するとともに、協議会主催による市民や事業者が講師として登壇する環境啓発講座などが実施されたことにより、利用者は年間7,848名となり、前年比約233%増となりました。

また、環境学習室で行う講座や市民などがさまざまな場所で行う環境教育・環境学習に対応できるよう、必要な物品の拡充も図っています。

(3) 環境講座・啓発活動の展開

環境保全への意識の高揚を図るため、自然体験学習の一環として「水辺のかんきょう教室」と「八王子浅川ガサガサ探検隊」を浅川で開催し、計179名の小学生などが水生生物の観察などを行い、水辺環境について学習しました。

また、企業、環境団体、環境市民会議、大学及び行政協働のもと、市民一人ひとりの環境に対する意識の高揚を図り、環境保全を推進することを目的に「環境フェスティバル」を八王子駅北口において開催し、3万5千人もの参加者でにぎわいました。

そのほか、小・中学校における総合的な学習の時間や市民主催の学習会などに市の職員が講師として出向く「はちおうじ出前講座」として、「八王子の環境」、「自然は友だち」、「ごみ減量とリサイクル」など6講座を開講し、環境教育・環境学習を支援し、環境意識の向上を図っています。



環境フェスティバルにおける
市民団体の啓発活動

主な出前講座（環境分野）一覧

講座名	内容	参加人数
八王子の環境	小・中学生対象を対象に、川の汚れを調べたり、現状や原因、家庭での生活排水対策を説明し、大気環境についても説明する。	481名
自然は友だち	生き物や暮らしとともに大気や水質のデータを紹介する。	144名
ごみ減量とリサイクル	ごみの減量と再利用の大切さを学んでもらうために、ごみと資源の分別について説明する。	2,613名
くらしと水道	水道の水をじょうずに使ってもらうために、すいげんから蛇口に到達するまでの説明をする。	50名

2. 環境教育の充実

(1) 「学校教育における環境教育基本方針」に基づく取り組み

学校教育における環境教育を一層推進するため、「学校教育における八王子市環境教育基本方針」を策定し、平成17年6月に公表しました。この基本方針は、子どもたちが身近な環境とのふれあいから環境に関心をもち、自然を大切にする心をはぐくむことにより、主体的に環境に関する問題を解決できる行動力をもった人になるよう育成することを目標としています。この目標を実現させるための取り組みとして、小宮小学校、美山小学校、南大沢小学校及び浅川中学校の4校を平成18・19年度環境教育モデル校として指定し、小・中学校における環境教育の研究を行いました。

また、総合的な学習の時間などにおける環境教育の取り組みの充実を図るため、新たな環境教育副読本を作成するための編集会議を行いました。

(2) 環境教育副読本の作成

ごみ減量・リサイクルの意識を育てるため、小学校の社会科副読本として「きれいなまち八王子」を作成するとともに、川への関心を高めるために「川と友だちになるノート」も作成し、毎年小学4年生に配布しています。学校ではこれらの副読本を活用し、環境教育の充実を図っています。



「八王子の川と友だちになるノート」

(3) 地域との連携による環境教育

自然に恵まれた八王子の地域特性を活かした自然体験型環境学習を地域における環境保全活動の経験や知識を持った人材の活用により行うことを目的として、由木東小学校、城山小学校において、総合的な学習の時間を活用して、環境診断士による環境教育を実施し、地域と連携した環境教育の推進を図っています。



大栗川での体験学習
(由木東小学校)



校内の酸性雨の被害を学習
(城山小学校)

3. 環境情報の提供

(1) 「環境白書の発行」

環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、毎年、市の環境の状況及び環境基本計画に基づく施策の実施状況を点検・評価し、明らかにした「八王子市環境白書」を発行しました。また、市の環境の現状に関するデータは、別冊のデータ集としてまとめました。

(2) 「環境報告書」の発行

八王子市内にある5ヶ所の清掃施設について、事業活動における環境配慮の取り組み状況に関する説明責任を果たすために、環境配慮の方針、目標、取り組み内容、実績を公表しました。

(3) ホームページによる環境情報発信

八王子市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)において、環境情報を提供しています。18年度は、より分かりやすく見やすい、また、必要とする情報を検索しやすいホームページを目指して、全面的にリニューアルを行いました。

(4) 環境市民会議ホームページの開設

環境市民会議では、それぞれの地区でより良い環境の実現を目指して、特色のある活動を展開しています。17年度からその活動状況を紹介するため、独自でホームページを開設しています。それぞれが独創性のある楽しい内容になっています。

4. 評価

環境基本計画における5つの重点取り組みの内「環境教育・環境学習」の分野について、3段階からなる評価を行いました。また、市の内部評価および環境推進会議における市民との相互評価は以下のとおりです。(評価の手法については15ページ参照)

主な目標

- ・環境教育モデル校での環境教育の実施
- ・環境学習リーダー・環境診断士の養成
- ・育成した人材の活動拠点の整備
- ・市職員に対する環境学習研修の実施

評価 : (当初の目標を達成した)

<市の内部評価>

学校教育における環境教育では、環境教育基本方針に基づくモデル校を4校選定し、実施したことから、今後は全校実施に向けて取り組んでいくこと。

養成した環境学習リーダー及び環境診断士については、環境市民会議はもとより、地域で活用できるよう、充分調整を図ること。

情報の収集・発信については、引き続き計画的に推進すると共に、拡充を図ること。

L A S - E の導入により、職員の環境への意識の高揚や事務事業における環境負荷の低減が図れたことから、更なる向上を図るためにも研修を重ねていくこと。

<環境推進会議での評価>

環境学習リーダー及び環境診断士の育成を進め、地域の特色を活かした環境教育に活用するようお願いしたい。

エコひろばは多くの市民が訪れるよう講座の充実やPRを図られたい。